



しらさぎ

求めて学ぶ 考えて行う 自ら鍛える

目黒区立第八中学校
学校だより NO.19
(通巻202号)
令和元年(2019)
12月16日(月)

『オリンピック・パラリンピック教育講演会』

校長 飯野 博史

木枯らしが身にしみる季節となりました。クリスマスのイルミネーションに年末の慌たしさを感じます。

12日(木)人権講演会を兼ねて「オリンピック・パラリンピック教育講演会」を開催しました。今回は「車いすバスケットボール」についてお話をうかがいました。講師はオーストラリアの現役の車いすバスケットボール選手、アナベルさんにお話をしました。4歳の頃からバスケットボールを始めましたが、足のけがにより17歳の時に車いすバスケットボールに転向したそうです。障害のあることなど少しも感じさせず、前向きにスポーツに打ち込む姿、車いすを自在に操る姿に感動しました。講演会では生徒たちからも質問がたくさん出て、大いに盛り上がりました。

講演会の後は学年毎に「車いす体験」をしました。車いすで鬼ごっこをしたり、バスケットボール部員がミニゲームをしたり、講師のアナベルさんと交流を深めました。みんな楽しそうでした。3年生の感想文を紹介します。

- ・今日の講演会で心に残ったことは「パラスポーツは可能性を広げてくれる」という言葉です。スポーツはやはり世界中で皆とつながっているんだな、と強く実感しました。私はバスケットボール部に所属しています。アナベルさんが車いすを素速く動かしてボールを自在に操る姿をとってもかっこいいと思いました。これからも頑張ってください。パラリンピック、応援しています。
- ・今回の講演会を終えて、障害の有無にかかわらず、自分らしく生きることが大切だと思いました。アナベル選手は足が不自由になってもバスケットをこのような形で続けていて気持ちが前向きで、自分とは違うなと思いました。車いすバスケットボールの中で障害の重さによって持ち点があるのを知って驚きました。アナベル選手が言っていた助けあうことはどんなときも大切なのだと改めて思いました。日本は今、2020オリンピック・パラリンピックに向けてバリアフリーなど増やしていますが、まだまだ不十分だと感じる場合があります。障害のある人も同じ人間として受け入れていくことが大切です。パラスポーツを通して他国の文化や環境にも注目していきたいと思いました。

